

女性読者モデルオーディション

ドクモスカウト DOKUMO 2011



参加者 大募集
Dokumo Scout 2011

第1次審査 vol.12
南房太海沖の
アジ&スルメイカ
南房太海港
長作丸

写真/文◎本誌編集部



12th チャレンジヤー
小松 理恵さん
こまつ りえ
プロフィール

- 1975年生まれ35歳
- 職業 会社員
- 趣味 釣り、バイク、食べ歩き

初めてのフラッシャー一仕掛け。終盤になって使いこなせるようになってきた



「一仕掛けのフラッシャーが、サバの邪魔に苦勞した」



▲ん、乗ってる……半信半疑で竿先に集中!



▲スルメ仕掛けを自製してきたのは立派
▼やった! 今日初めての2点掛け達成よ

▲フラッシャーの後半はサバの邪魔に苦勞した



♥乗りの良かったスルメイカだが、最初の1杯をゲットしてニココリ

「タナが浅いから、スルメは5杯も釣れた」



▲常連さんは慣れた手つきで次つぎとアジを掛けていく
▲船中初のスルメイカはこれ常連さん

もあって、初めは単発が多かったものの、徐々に多点掛けも見せるようになった。しかし日が高くなるにつれタナはドンドン深くなるうえ、サバも多く交じるようになる。上層を回遊するサバをよけて、アジのタナまで仕掛けを届けられれば百発百中で多点掛けが可能という状況だ。

わすか2時間ほどでほとんどの方のクーラーはアジでいっぱい。7時前に船長はスルメイカへの転進を告げる。トップで40尾、彼女は20尾ほどだった。沖に20分ほど走って180メートルダチのポイントに着。スルメイカの経験は何度かあるという彼女、今日はプランコの7本ツノ仕掛けを取り出していた。

このところ二枚潮気味で釣果は今一つという船長の言葉とおり、道糸は大きく横に流れて底ダチも取りづらい。

それでも30分ほどして船中第1号が上がってからはポツポツと釣れ始め、直結仕掛けの方は5杯掛けも。こまめにシャクリ続けていた彼女にも1杯目がきてホットと胸をなで下ろす。

結局10時半の沖揚がりまでに彼女は5杯、トップ15杯で終了。彼女は不満顔ではあったが、潮の悪い中でのこの釣果に船長は「よくがんばった」と及第点を与えていた。

理恵の感想

♥初めての外房&サビキ釣りは、重さ(笑)もアタリも、とっても刺激的でした。悪戦苦闘やしょんぼりしながらも「やっぱり釣りは楽しいな」を再確認の一日です。素敵な機会をいただき、また皆様にお世話になりました。

長作丸船長の目 Captain

桜井 節夫船長
16点 ●初めてのフラッシャーを楽しんでも、スルメもまらず、もう少し釣ってくれれば……。

採点者の目 Marker

時田 真吉
18点 (ビジュアル中心に20点満点で採点)

A: 情熱度 …釣りに対する情熱	B: 上達度 …実際に体験した釣りのもの、取材当日の上達度
C: 知識度 …釣りに関する経験、知識	D: センス …釣りのセンス
E: お騒がせ度 …船の中でムードメーカーであったか、元気だったか	F: 釣果 …船中の釣果に対して平均が否か

徳永 隆也 22点
 評価 ● 最近はいかに釣りにハマっていると言っただけあって、ツノの扱いが手慣れたものだった。前半のアジには少々手こずっていたが、サバの猛攻にも怪しげ仕掛けを入れていたのは◎。「こんなに楽しいなら、もっと早い時期から釣りをやれば」と残念そうに呟っていたのが印象的でした。

根岸 伸之 24点
 評価 ● 海況の悪い中でも明るく釣っていたのは好印象だった。初体験のアジはまだしも、何度か経験のあるというスルメイカはもう少し釣ってほしいかった。せっかく直結仕掛けを持ってきたのだから、一度くらいは出番があってもよかったかな。

総合得点 Score **80**点
100点満点
※この点が一次審査の持ち点になります

▼まだ暗い4時前に出船、ポイントで日の出を迎える



前半はフラッシャーサビキ、後半は18センチのプランコでスルメイカを狙う。オモリは150号

今回登場していただいた小松理恵さんが第2期の一次審査のアンカー、いよいよ今回が最終戦である。

彼女は多少釣りの経験があるとのこと、今回はちょっと足をのぼして南房太海からフラッシャー仕掛けで狙うアジと、スルメイカのリレー釣りにチャレンジしていただいた。彼女には初めての経験である。



●ひよんなこと(ケガのリハビリですすめられ)から始めた釣りですが、今ではすっかりとりこです。釣りを通して、魚だけじゃなく色々な方々とも出会えることができました。そんな楽しさを皆さんに知っていただきたく応募しました。

8月15日午前4時、長作丸は総勢6人とともに港を離れる。ベタナギを予想したものの、熱帯低気圧の影響か海上はウネリが高いうえ、南風もかなり吹いている。

悪い予感がしたが、彼女は平気な顔でクルージングを楽しんでいる。船酔いはほとんどないと聞いてまずはひと安心。30分ほど走ってポイント到着。水深は100メートルほど。「上から10〜30メートルでやってください」の合図で釣り開始。彼女が仕掛けのセッティングに手を焼いているうちに、船中では早くも30センチ前後のアジが乱舞している。2流し目から彼女も参戦。フラッシャーはピンアジと違って、指示タナの上から徐々に仕掛けを落とし込んでタナを探る。そのつど同船者が釣れたタナを教えてくれたこと